

【概要版】

令和3年度奈義町財務書類4表（一般会計等）

※普通会計ベース

奈義町では平成28年度決算より、「統一的な基準」に基づく財務書類の作成・公表を行っています。

財務書類4表は①貸借対照表、②行政コスト計算書、③純資産変動計算書、④資金収支計算書で構成されており、4つの表は以下のような相関関係にあります。

この4表は、民間企業でいう①貸借対照表、②損益計算書、③株式資本等変動計算書、④キャッシュフロー計算書にあたるものですが、民間企業と行政とでは事業目的が異なるため、それぞれを完全には比較できません。

財務書類は、現在の現金主義の決算書を補完するものとして、4表の作成・公表をしています。

① 貸借対照表

町がサービスを提供するために保有している資産とその資産がどのような財源で構成されているかを表すものです。奈義町の一般会計等（普通会計）の資産合計は約143億8千7百万円、将来世代の負担が約43億円、今までの世代の負担で形成された資産は約100億8千7百万円ということがわかります。

② 行政コスト計算書

1年間の行政活動のうち、資産形成に結びつかない行政サービスに係る費用を表したものです。

社会保障費などの移転支的コストが約17億9千4百万円、次いで物件費などの物にかかるコストが約12億7千6百万円、人件費が約9億2千2百万円と続きます。

③ 純資産変動計算書

貸借対照表の純資産の部が1年間の活動でどのように増減したかを表すものです。今年度は令和2年度末の残高約95億5千6百万円に対し、約5億3千1百万円増の約100億8千7百万円となりました。

④ 資金収支計算書

1年間の現金の動きを3つに区分したものです。人件費・物件費・社会保障費といった支出とそれに対する収入との差の業務活動収支は約9億6百万円の黒字ですが、投資活動収支は約5億8千万円、地方債償還などの財務活動収支は約1億9千4百万円の赤字となっています。

業務活動収支の黒字で投資活動収支と財務活動収支の赤字を埋め合わせできたため、約1億3千2百万円の現金が増加しています。

① 貸借対照表

(単位：百万円)

【資産の部】		【負債の部】	
○固定資産（庁舎等）	11,778	○負債（地方債等）	4,300
○流動資産（現金等）	2,609	【純資産の部】	
・うち現金預金	448	○純資産	10,087
資産合計	14,387	負債・純資産合計	14,387

② 行政コスト計算書

(単位：百万円)

A【業務費用】	2,226
○人件費（職員給与等）	922
○物件費等（物件費、減価償却等）	1,276
○その他（支払利息等）	28
B【移転費用】	1,794
C【経常収益】	305
D 純経常行政コスト A+B-C	3,715
E【臨時損失】	6
F【臨時利益】	28
純行政コスト D+E-F	3,693

④ 資金収支計算書

(単位：百万円)

【業務活動収支】	906
【投資活動収支】	△ 580
【財務活動収支】	△ 194
本年度資金収支額	132
前年度末資金残高	300
本年度末歳計外現金残高	16
本年度末現金預金残高	448

③ 純資産変動計算書

(単位：百万円)

前年末純資産残高	9,556
-	
純行政コスト	3,693
+	
財 源	4,227
+	
そ の 他	△ 3
=	
本年度末純資産残高	10,087